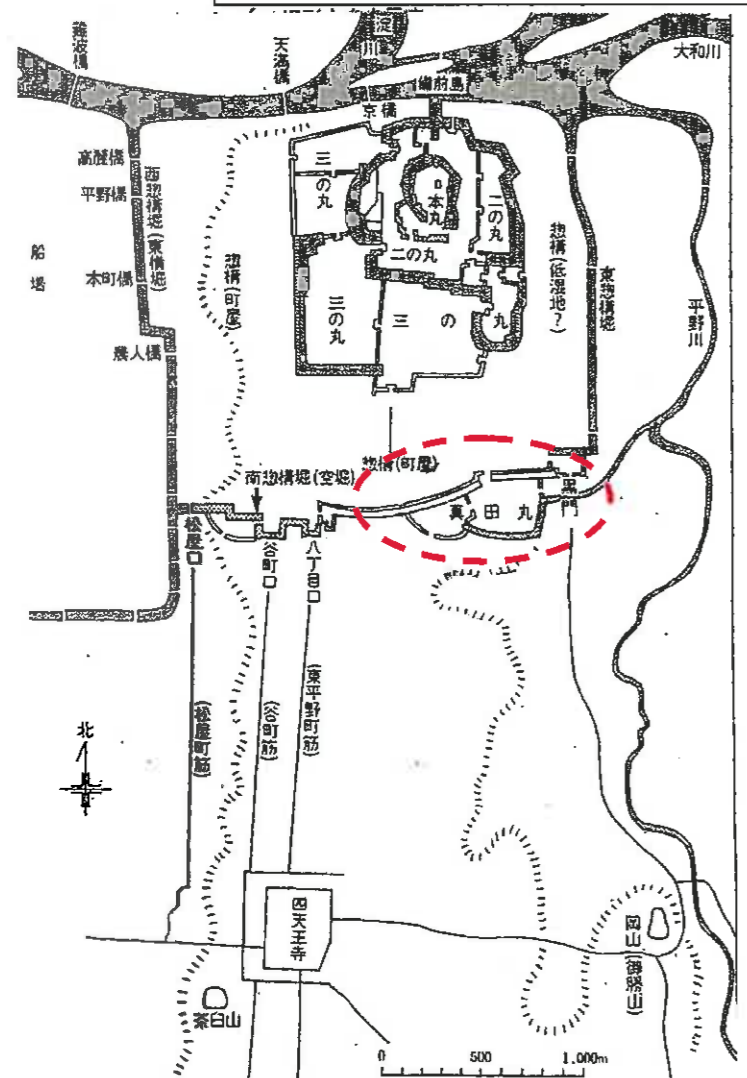


出典：『偃台武鑑』の大坂冬の陣配陣図



印は大坂冬の陣の真田丸の場所

出典：図説再見大阪城

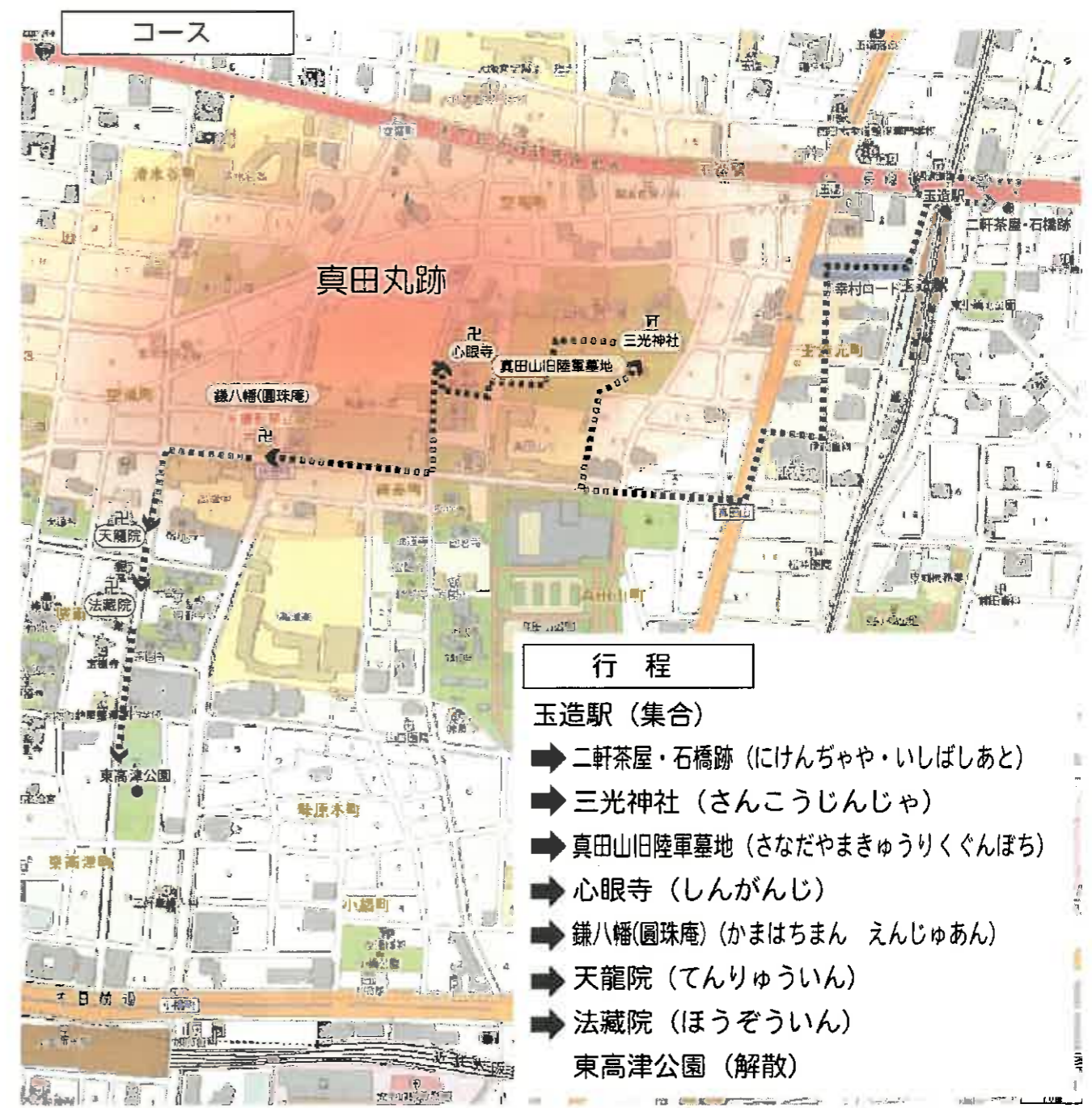


## てんのうじ知りたいうォーク第4弾

天王寺 真田幸村博サフイベント第2弾「～冬の陣～真田丸と古戦場を訪ねて」

日時 平成26年10月19日(日) 12時30分受付開始 13時催行  
 主催 てんのうじ知りたいうォーク倶楽部(旧未来わがまち会議)  
 協力 天王寺区役所

注意事項：神聖な場所の拝観となりますので  
 ■境内では静粛に ■拝殿では拝礼を ■社殿・お堂内は脱帽 ■ペットはご遠慮ください。



### 行程

- 玉造駅(集合)
- ➡ 二軒茶屋・石橋跡 (にけんぢや・いしばしあと)
  - ➡ 三光神社 (さんこうじんじゃ)
  - ➡ 真田山旧陸軍墓地 (さなだやまきゅうりくぐんぼち)
  - ➡ 心眼寺 (しんがんじ)
  - ➡ 鎌八幡(圓珠庵) (かまはちまん えんじゅあん)
  - ➡ 天龍院 (てんりゅういん)
  - ➡ 法藏院 (ほうぞういん)
  - ➡ 東高津公園 (解散)

**てんのうじ知りたいうォーク倶楽部メンバー募集!**  
 てんのうじ知りたいうォーク倶楽部は会員相互に協力し、天王寺区未来わがまち会議の活動を継承しつつ、天王寺区の宝(文化・歴史・企業など)を区民に知ってもらい、天王寺区に住む喜びを感じていただくというグループです。詳しくは [tennoji.shiritai.club@gmail.com](mailto:tennoji.shiritai.club@gmail.com) にご連絡ください。

## ○玉造(たまづくり)

古墳時代に勾玉などを製作する玉作部(たまさくべ)が置かれていたことから由来。

大坂城の南から真田山にかけての地域名称で、中央区森ノ宮中央・玉造、天王寺区玉造元町・玉造本町等、広義では中央区上町、天王寺区清水谷町・空清町・餌差町・真田山町、東成区中道・東小橋などの周辺地域も玉造に含む。豊臣秀吉の大坂築城には三の丸に組み込まれ、細川・宇喜田・蜂須賀・前田・龍造寺・浅野・片桐などの屋敷が置かれたが、大坂の陣により全て廃墟となる。松平忠明による復興により、玉造は武家地・町人地・年貢地が混在する地域となった。北半は玉造口定番の武家屋敷地、中央に町人町(玉造26町)空堀跡以南に東成郡玉造村が置かれ。玉造村は高燥地で、玉造黒門越瓜(玉造黒門白瓜)が栽培されていた。「黒門」の名は、中央区玉造1丁目付近に有った大坂城の玉造門が黒く塗られていたことに由来する。

明治に入ると武家屋敷が破却され、町人町も衰退し、江戸時代の武家地・町人地は明治6年(1873)に東成郡西玉造村なり、大阪市から切り離され明治22年(1889)西玉造村と玉造村が合併し東成郡玉造町となる。明治28年城東線玉造駅が開業すると宅地化し明治30年(1897)大阪市に編入された。黒門と玉造駅の所在地は厳密には東成郡中道村の旧村域となり、中道黒門町(字黒門)・中道唐居町(字唐居殿・字唐屋敷・字唐屋敷黒門)という旧町名だった。

## ○二軒茶屋・石橋跡(にけんちゃや・いしはしあと)

この地は大坂から奈良に通じる起点にあたり、江戸時代から暗越奈良街道(くらがりがえならかいどう)が伊勢参宮や大和巡りの旅人の往来や見送りの人々で賑わい、この街道の起点であった玉造に「つる屋」「庄屋」(後にます屋という)二軒の茶屋は休息所として、別れの酒宴の場として利用され名所となるほど繁栄したと伝えられている。ます屋は明治初年に廃業し、つる屋は牛肉店に転業し大正年間まであった。茶屋が二軒あったところから“二軒茶屋”といわれ世に広く知れわたった。(現・大阪市顕彰史跡)。



この二軒のそばを流れていた猫間川(ねこまがわ)に宝永8年(1711)に幕府の命によって橋が架けられたのが“石橋”である。正式には黒門橋というが、この付近にあった大坂城の玉造門が黒い門であったところから黒門橋と名づけられ、この橋が大坂では当時珍しく石で造られたものだったので通称石橋と呼ばれている。猫間川に架かっていた石橋は近郊の八王子神社(東成区)に石橋の一部が保存されている。

### ◇暗越奈良街道(くらがりがえならかいどう)

奈良に通じる街道は暗越奈良街道と奈良街道(平野街道)があり、他は耕地であり部落と部落を結ぶ野道程度のものしか地図上になかった。暗越奈良街道は玉造・中道黒門から河内平野を横切り奈良に至るが、古来有名な街道で京街道につぐ賑やかさで、玉造駅東に有った二軒茶屋は伊勢参宮の鹿島立ちを見送る人達などで賑わった時代を追うに従い道路網が細くなり、城東線と市電の敷設によって急激に発達した。



## ○真田丸 ※諸説あり

大坂城は上町台地の丘陵の北端に位置し、北は淀川の流に臨み、東、西も台地から見て低地となっており、南方のみ丘陵が続く、丘は南へ行くにしたがって、低下し住吉大社付近に至る。丘中最も高いところは城内で、本丸の高さ32メートル天主の基礎は更に盛土し45メートル余の高さ、徐々に低下し天王寺辺は17メートルとなる。城の弱点は南方で空壕を作り、丘を横断し要塞を作る必要があり、この方面が今又攻撃正面となる事、自然の形勢で諸将は防衛に心を悩ましていた。玉造口(南方正面)を隔てて、一つの篠山あり(今之を真田山と云う)後藤又兵衛基次を見て屈境の要塞にと砦を構えて敵の攻撃を支えんと自ら縄張りとなし、構築に取り掛かる。諸人曰く此の孤塁を守る者は真田其人なるべしと。誰云う事なく遂に真田丸と呼ぶ様になった。

真田丸は南北124間(225m)東西79間(143m)の砦で、土塁を築きこの上に2重の塀を作り、東西に門が有り攻撃に使い北方には小門を作り本城との交通に備える。土塁の上には七櫓を設け、更に横には一間半出塀の塵陷(チリオトシ)等を設けて一気呵成に破る事叶い難し。斯くの如き堡砦(ホサイ)に向かつては仕寄(竹束土塁等を)を造る。籠城と事決めれば諸将相談して守備の区域を定める。

南方の出丸(真田丸)主将真田左衛門佐幸村、伊木七郎右衛門遠雄、伊丹周防守正俊、山川帯刀賢信、平井七兵衛門保利、北川次郎兵衛宣勝、由松刑部承實元、浅利式部一盈ら馬上二十五騎、雑兵三千人。

### ◇篠山

真田幸村が守る真田丸の南4丁ところに小篠の茂る小山で、土俗これを小橋(或は伯母瀬とも云う)の篠山という。

真田山小学校から4丁(109m×4=436m)真田山公園を突っ切り味原池の東側明星学園か餌差町なら池を突っ切るか、味原池の西側どちらにしても味原池は?産湯稲荷神社周辺は、宝蔵山ともいわれ小山が存在していた。

## ○四天王寺炎上

11月6日城中より兵を出し天王寺を焚き払い、東軍をして抛る能はざらしむ。或は云う。高虎孤軍深く敵地に入れるを以て、敵の逆襲を防止せんが為、前面の掩蔽物を払へるなりと。抑、天王寺は聖徳太子、守屋大臣を攻撃せるに際し、四天王の加護を祈り戦勝を得たるに依りて建立せしものにして、仏法最初の大伽藍なりしかば、士民の崇拜又深きものありしが、折節強風吹き荒みて忽ち猛火天を焦し、金銀珠玉を鑲めたる殿堂より廻廊に至る迄尽く焼土と化したんぬ。「大坂冬夏之役」

### ◇五重塔四代目

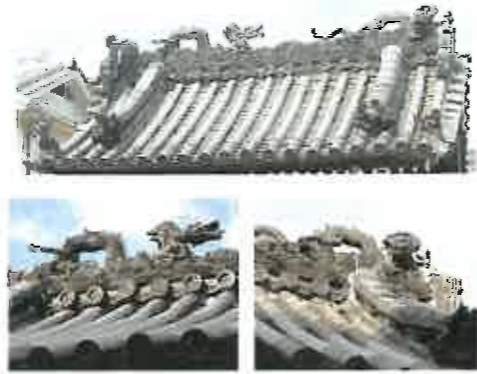
文禄3年(1594)秀吉四天王寺再興に着手、慶長3年(1598)秀吉死去、秀頼は秀吉の遺業の継承として秀吉が着手していた寺社の再興を引き次いで行う。四天王寺の再興も秀頼により、慶長5年落慶法要が行われた。元和9年(1623)徳川秀忠により五代目が再興された(高さ44,5m)現在は八代目(39m)



出典：大坂冬の陣図屏風

## ○法藏院 浄土宗（本尊：阿弥陀佛）

「慈光山 法藏院 徧照寺（じこうざん ほうぞういん へんじょうじ）」と号し、天正5年（1577）3月15日に「常蓮社住譽慶公和尚（じょうれんじゃじゅうよけいこうしょう）」によって開山された。明和2年（1765）、13世「哲譽松瑞和尚（てつよししょうずいかしょう）」が檀家の協力を得て、庫裏を再建された。また、文久2年（1862）8月、銭屋忠兵衛の肝煎りによって、本堂・庫裏・玄関・書院・弁天堂・石鳥居・井戸屋形等あったが、昭和20年6月15日戦火に罹り山門を除き焼失、現在復興計画中である。



法藏院の山門には、「病に苦しむ人たちがこの門をくぐると、その苦しみが和らいだ」という言い伝えがある。その由来としては、この山門の構造が薬醫門（やくいもん）（薬医門）といわれる構造で、かつて医者としてのよく使われていたことからきたようである。当時は門の脇に木戸をつけて、たとえ扉を閉めても四六時中患者が出入り出来るようにしていたと言われている。

山門は第16世震譽法隆和尚の建立と言伝えられ、先の大戦により資料焼失のため、正確な建築年数は不明だが、山門の上部には龍瓦があり、この容姿からこの山門を、龍之門と称し代々受け継がれている。戦国時代の戦火や、第2次世界大戦の折には、この山門を除きほぼ消失しました寺院であるが、龍神に守られているこの山門だけは、戦火を免れ、今も尚、勇壮に法藏院を守護している。屋根上の男龍・女龍は、瓦師鬼辰鬼又の雕心鏤骨（ちょうしんるこつ）の作と言われている。

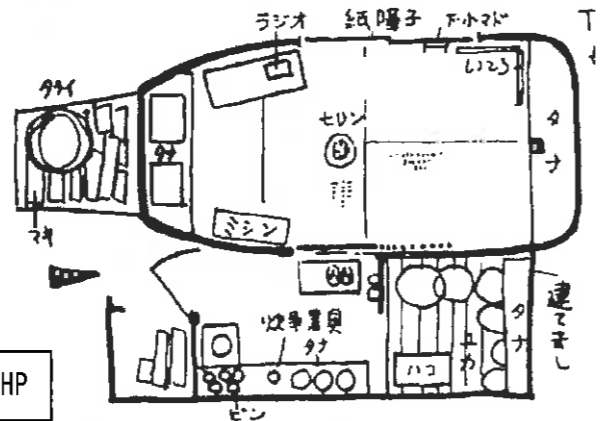
## 東高津公園

### ○バス住宅

コンドルミシン株式会社が市民の住宅用として、昭和22年8月大阪市より市バスの廃車64台の払い下げを受け、住宅に改造、うち28戸を八丁目中寺町24番地に、36戸を東高津北之町に配置分譲した。当初の間取りは前方機関部をバスの屋根の高さまで延ばし、物入れとし、入口タラップの左側を炊事場に入口の右側と運転席の間は畳2帖敷きとし、後部を3帖及び物入れとしている。



出典：昭和20年ごろバス住宅（都島区史） 大阪市 HP



出典：まちに住まう 大阪都市住宅史（城北バス住宅平面図）

### ○小橋墓地

元和の初め松平忠明が大坂市街造成にあたって、東横堀川以東にあった墓を移して設置した小橋墓地は東高津北之町の北隅、八丁目中寺町から南へ突出した小丘陵にあって、東は住宅地となり、もとの味原池につづき、付近は城南大桃林の中心地であった。維新の始め廃止となり、墓石は所縁の地に移り無縁の墓は大正3年12月11日一丁余り北の十萬寺へ改葬された。

## ○幸村ロード

真田幸村とゆかりの深い地域でもあり、幸村の抜け穴があると伝えられている三光神社への参として、歴史ファン・幸村ファンに喜んでいただけるようにJR玉造駅西側の玉造日之出通り商店街の横町を『玉造 真田幸村ロード』と命名することになった。

「玉造 幸村ロード」では、2014年2月に「ハンバーガーストリート」として、パンと具材を自由に買って、オリジナルハンバーガーを楽しもうという企画が行われた。



## ○三光神社(さんこうじんじゃ)

本殿：祭神・天照大神・月読尊・素戔嗚尊

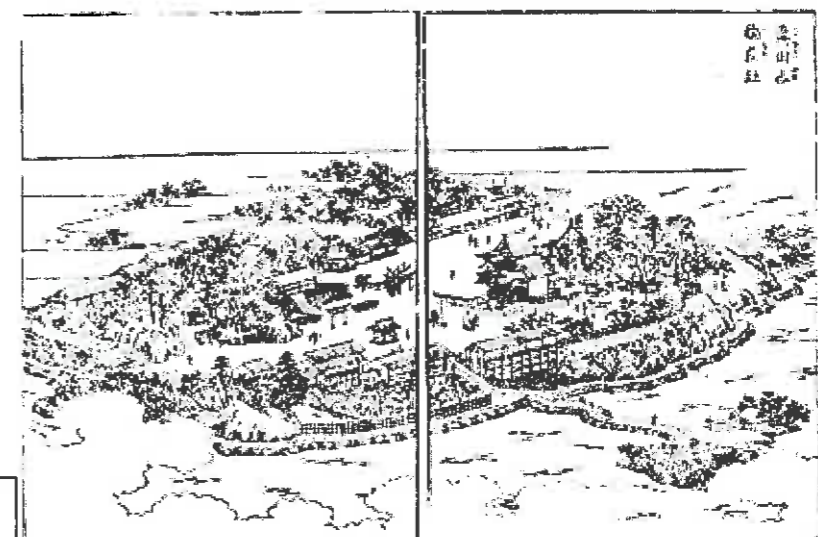
末社：仁徳天皇・竹内宿禰・野見宿禰・主守稻荷

創建は反正天皇時代（406～410）と云われる。350年ほど前、鎌八幡の隣に移ったが45年経て、宝永3年（1706）再び今の地に戻った。神社の名も、姫山神社、宰相山神社と変わり明治41年（1908）三光宮を合祀して、三光神社となった。

### ◇真田の抜け穴と真田幸村の像

大坂城の出城のあった所で慶長元和の大坂合戦の頃真田幸村が此の地に偃月城（えんげつじょう）と名付ける壘を定め本城よりここに至るまで地下に暗道を設けたと言伝えられ今なおその跡を三光宮鎮座の階下にあり。

真田の抜け穴脇に真田幸村公の陣中指揮姿の銅像（イラストレータ成瀬浩一デザイン）を建立（昭和62年（1987）5月5日）、その台座に信州上田の真田家の菩提寺である長谷寺より取り出した石（名付けて真田石）が置かれている。



出典：摂津名所図会

## ○真田山旧陸軍墓地(約 15,090 m<sup>2</sup>)

西南・日清・日露戦争の戦没者の個人墓碑が整然と並び、納骨堂には、太平洋戦争などの戦死者の遺骨が、納められている。戦前 80 ケ所以上作られた日本各地の陸軍墓地の中でも最古の歴史を持ち戦時・平時を問わず、この地や戦地でなくなった将校・下士官・兵卒・軍役夫など 5,299 基以上の墓石群と 43,000 余の遺骨を納める納骨堂(昭和 18 年(1943) 建立)から成り立っている。墓碑は規則によって大きさや形が定められ、階級ごとに区画された区域に整然と立ち並んでいる。少数とはいえ、敵として戦い捕虜となってこの地で亡くなった日清戦争の清国兵 4 名、第一次世界大戦のドイツ兵 2 名の墓もある。一番古いのは明治 3 年(1870)に建てられた「下田織之助」の墓標。現在、墓地は国有地で、大阪市が管理し、祭祀は公益財団法人真田山陸軍墓地維持会が担当し、地域ボランティアが草刈・落ち葉拾い等奉仕されている。



## ○心眼寺 浄土宗(本尊:阿弥陀佛)

心眼寺は元和 8 年(1622) 4 月白牟和尚が、大坂城出丸城跡に、真田幸村父子の冥福を祈る為に堂舎を創建し、浄土宗法然上人の念仏道場として、今日迄永く法灯を伝えている。

当寺付近は、名将真田幸村(真田左衛門佐信繁)が、慶長 19 年(1614) 冬の陣に、豊臣側にとって手薄な上町台地の大阪城南東三の丸南に、真田の出丸と呼ばれる半月形の砦を造り、松平忠直・井伊直孝・前田利常らを迎え撃った陣地であり、境内地に幸村鎧掛の松の木もあったが、戦災で焼失致した。後にこの付近は真田山と呼ばれる様になった。



真田幸村は冬の陣では、大勝利を収めたが元和元年(1615)の夏の陣 5 月 7 日、茶臼山に陣取り家康の本陣を一気に攻めたが、多勢に無勢の為傷つき、安居神社の境内で休息中、松平忠直の配下、鉄砲頭西尾久作と家来に不意をつかれ、落命した。尚、真田山心眼寺は時の幕府戦略上の関係もあって、上町台地にお寺が集められた折、白牟上人が大坂冬の陣の陣地跡に、真田幸村とその子大助の冥福を祈る為に創建された。その為、当寺の定紋は真田家の六文銭と定められ、山号は真田山となっている。しかし、真田父子の墓は当時幕府の直轄地のため、お墓は建立されなかったようである。

### ◇まんなあし地蔵尊

創建年代は不明、まん悪きとき、開運の祈願をかけると願いが叶うと言われ、信仰あつく参詣が絶えなかったようである。戦前は真田軍薬なるものがよく売れていた。これは真田幸村が傷薬として、愛用していたものと言われ黄色い粉末で、袋に六文銭のマークが付いており、良く傷に効いたそうである。

### ◇京都見廻組 林早之助・渡邊吉太郎の墓

見廻組は元治元年(1864) 4 月幕府の命により旗本から武芸達者を選んで京都で結成された市中警固の任務は新選組と大差ないが幕臣の集団であった。坂本龍馬暗殺に関わり注目されたが慶応 4 年(1868) 1 月 3 日鳥羽伏見の戦いで惨敗し新選組と同じ運命をたどった。

## ○鎌八幡 境内撮影禁止

遠い昔、このあたりは三韓坂と言われた古道で、そのわきに一本の榎の霊木があり、人々の信仰を集めていた。大坂冬の陣のとき、真田幸村がこの土地に陣所を構えたが、この信仰を聞き伝えて、鎌を打ちつけ、鎌八幡大菩薩と称して祈念したところ、大いに戦勝をあげたと伝えられている。

### ◇悪縁を断つ

病根断(頭痛、ぜんそく、痔、等々諸病平癒)、縁切、因縁断、悪霊断、厄払、悪運断 他

## ○圓珠庵 真言宗(本尊:不動明王) 境内撮影禁止

江戸時代初期に、この鎌八幡の境内に、国文学者として有名な高僧契沖阿闍梨(けいちゅうあじり)が居を定め、圓珠庵と称した。契沖は、ここで万葉代匠記や和字正鑑要略を著わし、国文学の研究に専念すると同時に、深く鎌八幡を信仰した。この頃から「鎌八幡」は「祈とう寺」として、人々の信仰が広まった。大正 11 年(1922)に、境内全域が大阪市では最初の国の史跡指定を受けたが、境内の大部分は、戦災で損壊したあと復興したものである。その間、霊木は、蘇生し、絶えなる信仰と、多くの霊験得られている。



## ○天龍院 浄土宗(本尊:阿弥陀佛)

このお寺は、天正 14 年(1586)に建立され、大阪市指定文化財の木造十一面観音菩薩立像安置されている。この十一面観音菩薩立像は、お寺の建立より古いものと言われており、平成 14 年(2006)の大阪市から指定文化財に指定された。現在の観音堂は、お寺の建立 400 年を記念して建てられたものである。

### ◇著名人の墓

稻生恒軒(いのこうけん)……江戸時代前期の医家、慶長 15 年(1610)

稻生耕雲(いのこううん)……江戸中期の医家。寛延 4 年(1751) 死去

北尾墨香……江戸後期の書肆(本屋)。文化六年~嘉永六年。

曾我廼家五郎・曾我廼家十郎……明治・大正昭和期の喜劇俳優。

長沢蘆雪……大胆な構図で知られ奇抜で機知に富んだ画風で「奇想の絵師」と呼ばれた。

### ◇天森(てんしん)養護老人ホーム

天龍院の第 26 世「河野秀道」が初代院長として、昭和 27 年 5 月に養護施設として開設した(定員 50 名)。昭和 45 年に木造の旧舎を廃し、鉄筋コンクリート造 5 階建ての新館を竣工し、定員 107 名に拡張された。

